

## ウィローストーン・アカデミー

お話：

レポート：小林清美

### ★概要

- ・学校施設見学およびプリスクール参観
- ・担当教諭もしくは学校担当者との座談会
- ・Before School & After School Program について

\*教会に併設するキリスト教系私立校であり、クリスチャンでなくとも入学することができる。小規模校ならではのアットホームな環境。就業する親のために学内で学童保育を行っている

### ★プリスクール

- \*3才児は、毎朝必ずみんなで集まって、先生がその日の子ども達の状態を確認する。発言したい子に手をあげさせて発言させたあとに、その日の気分を緑は元気・黄色はまあまあ・赤は元気がないと色分けで表現させる。黄色や赤の場合、どうしたら緑のゾーンにいけるかを考えさせる。
- \*歌や踊りで子ども達はどんどん盛り上がってくるが、途中でそれを抑えるようなトーンにすることで、自分が興奮した時にどうしたら自分を抑えることができるかを学ぶ。
- \*4才児は20名に対し、先生1人とアシスタント1名。支援プログラムによって、必要に応じて特別支援のアシスタントを増やしたり減らしたりしている。
- \*毎週アルファベットを1つずつ習う。子ども達に習うアルファベットが最初に来るものを出させる。そうすることで、自分の知らない言葉を他の子どもから学ぶことができる。



- \*この日には実習生がいたが、実習生は年に1回受け入れている。実習生は必ず、実習が終わってから1年以上授業が残っていることが受け入れの条件になっている。
- \*子どもに接する中で大切にしていることは、自立を促すことで、どこに行っても身に付けたことが役に立つことが大切だと思っている。そして困ったときに「助けて」と言えるようにしている。
- \*新しく先生になった人に伝えることは、環境設定に心掛けることで、一つのことに集中して設定してしまうと、その子が何に興味があるのかが見えなくなる。そして同じ環境だとつまらなくなるので、いつも新鮮にしておくようにと伝えている。



## ★キンダーガーデン

\*5才児は小学1年生。3つの理念で進めている。①自己の学び②次のステップに行くために実用的に考える③自分で考えて自分で作り出す

## ★質疑応答

\*レチオ・レミリアという教育者の考えを尊重している。子どもがどのように考えて、自分がどのように学んでいきたいかを中心に学んでいる。子どもが学びの中心になっている。

Q:日本は親が保護するという意識が強いが、環境設定・自立を促す・困った時にどうしたらいいかを考えることができる子にするために、先生をどのように育てているのか?

A:親と一緒に巻き込んで子どもたちを教育することで、学校だけではない学びが出来る。日常的に親を自由に受け入れていて、孤立した学びではなく、全員が関わることで色々な人が色々なことを学ぶことが大切。先生のトレーニングとしては、遊びの中からどのようにして学んでいけるかを一緒に体験できることができる先生が大切。若い先生は何年も上の先生と組んで色々なことを教えてもらう。特に2年間は上の先生とパートナーを組んで学び、その後自分のクラスを持つ。

Q:親との関係作りは?

A:毎週ラーニングストーリーといって、写真と子どもがどんなことをして遊んだかを親に送る。自分の子が幼稚園で遊びから学んでいると言っても、遊びだけの部分に集中しがちなので、親に伝えるのは遊びから何を学んだのかを伝える。また、日頃から親から子供の成長に関してなどの質問を受けている。理由は、オープンなコミュ



ニケーションをすることで親が先生への信頼感を得ることが大切。

Q:3才でも自分の気持ちが伝えられるのはなぜ?

A:自分の感じていることや考えていることを声にすることが大事だと小さいころから大切にしている。

## ★視察しての感想

学ぶ主体は子どもだということがはっきりしていて、そのためにどんな環境設定をし、子どもの何を伸ばしていくかを考えて、一人一人にあったプログラム作りをしているのが素晴らしいと思いました。また、子どもの気持ちを自分で表現させて、その上でどうしたら一番いい状態に気持ちを持っていくかのコントロールの仕方を考えるということが、3才児で出来ることにも驚きました。

親との関係も、預ける人・預かる人という関係ではなく、一緒に子どもの成長を考えみんなが学びあえるように、日常的に信頼関係を作っていくことが必要だと思いました。そして、信頼関係がしっかりできるために、先生の質をよりよくするためのシステムがしっかりしていることにも感心しました。